

木彫に一筋65年“匠の技” 現代の名工 塚原忠雄さん

社寺建築の彫刻を専門に製作する人を、堂宮彫刻師という。大田区東雪谷2丁目に住する、塚原忠雄（桂昌）さんは、その数少ない彫刻師の1人。塚原さんは、桂月の号を持つ父について、この仕事を始めたのは中学生を卒業すると同時だった。それ以来65年間この道一筋に力を注いできた。

塚原さんは神社仏閣の彫刻を専門とし、中でも欄間彫刻でその名が高い。欄間彫刻は施主の注文に応じて絵柄を決める神社仏閣のものだけに、歴史に題材をとったものが多く、歴史や伝説、仏教説話などに通じていなくては行けない。構想を固めて下絵を書くが、書いては眺め眺めては書き直しての日々という。絵描さんの絵では駄目なんです。欄間ですから絵柄の細部にわたって、どこかでつながないと彫れませんという。

現在までに手がけた社寺は150有余、重要文化財等の復原も20ヶ所以上に及ぶ。神社仏閣の拜殿、本堂、山門などを飾る獅子頭・龍・花鳥等を手がけ、中でも木彫刻で最も高度の技能が必要とされる欄間の彫刻に卓越した才能を持っている。

代表作のいくつかを紹介すると、2008年に開基1070年を迎えた成田山新勝寺の総門が完成した。総門を飾る獅子頭（阿吽3対合計6体）の大作がある。また、妻沼聖天山歓喜院聖天堂（埼玉県熊谷市、国の重要文化財）の修復には欠損した部分を復元する作業に塚原さんの熟練した“のみ”さばきが、聖天堂の細部を再現した。

東京都伝統工芸士、日本木彫連盟江戸木彫刻の理事長など歴任、平成19年4月黄綬褒章を受賞。区内で塚原さんの作品が見られるのは、金剛院の本堂（新蒲田）、長福寺の長明閣（下丸子）、長慶寺の龍と獅子（東雪谷）、本光寺の日蓮一代記（久が原）、安詳寺の花鳥（久が原）などがある。

（南雪谷・立麻裕穂）



（成田山新勝寺 総門 獅子頭）



（妻沼聖天山歓喜院聖天堂 奥殿大羽目彫刻）

これも“振り込め詐欺”の新手？

先号の「ふれあい雪谷」あさがお号（91号）に「母さん助けて詐欺」が載っていましたので、ちょっと聞いてください。

6月のある日、自宅に「G.Mさんのお宅でしょうか」「はい」「私〇〇証券（大手）の△△と申しますが、G.Mさん株をやっていますねどうですか？儲かってますか？」「これから出かけるので株の話はまたにしてください」と言って電話を切ると、暫くして今度は歩いている時にケータイに「〇〇証券の△△ですG.Mさんに是非お勧めしたい株があるのです。実は私の知り合いでIT関連の会社が近々上場するので、有望です必ず儲かります。いかがでしょうか？300万円ぐらいご用意できませんか？」つい「それぐらいなら」と言って約束すると「では明後日、午後2時頃書類を持ってお宅に伺いますのでよろしくお願い致します」と言ってケータイを切ったのですが、チョット待ってよ！

どうして？何で家の電話番号を知っていたのか？ケータイも。さらに株をやっていることまで、家に来ると言うが住所は分かっているのか？新手の詐欺ではないのか？と考え、近くの交番で相談し、△△さんが来る頃、制服のおまわりさんと自宅前で立ち話をしている



と、一見会社員風で40代の男性が近づいて来たのですが、こちらに声も掛けずそのまま通り過ぎて行き、2度と電話も掛けて来ません。たぶん新手の詐欺ではないでしょうか？

プライバシーや個人情報にはあらゆる手を使って調べ上げ、筒抜けです。皆さんもこのような電話には十分にご注意くださいな。

（東雪・G.M）

お詫びと訂正

「ふれあい雪谷」平成25年あさがお号の「カメラ担いで江戸散歩」の掲載内容に誤りがございましたので、訂正いたします。

誤 「若林さん」 → 正 「武林さん」

編 集 後 記

暑い暑い最中、孫達家族（4～11歳迄の5人）と池上線、山手線、常磐線、水戸線乗り継ぎ2泊3日で実家に行ってきました。裏山から切り取った竹での流しそうめん、水遊び、バーベキュー、花火大会と、子ども達はこの暑さも諸ともせず1日中大ハシャギでした。今は皆元気でそれぞれの家に帰りホットしているところです。大変疲れましたけれど楽しい楽しい日々でした。

都議選、参院選の結果は予想通り。予想外、想定外だったのは今迄経験したことのない異常気象による高温の日々、集中豪雨等による崖崩れ、河川の氾濫が起き、各地で家屋の破壊等の被害が出ています。被災地域の1日も早い復興を祈るばかりです。

世の中突然予期せぬことが起こりますが、子ども達、若者達の将来の為に明日は安定した1日であってほしい。2013年盛夏

（石川台・大槻生）

ふれあい雪谷（創刊・平成2年（1990）12月20日）年4回発行

（1月・新年号／4月・さくら号／7月・あさがお号／10月・もみじ号／の1日発行）

【発行日】平成25年（2013年）もみじ号 10月1日（通巻・第92号）発行

【発行】地域力推進雪谷地区委員会【編集】「ふれあい雪谷」編集委員会

【連絡先】雪谷特別出張所

〒145-0065 大田区東雪谷3-6-2 電話3729-5117 FAX3729-1826

http://www.city.ota.tokyo.jp/chofu/ts_yukigaya/index.html

ふれあい 雪谷

平成25年 10月 もみじ号 通巻第92号



お隣さん 文教大学付属小学校

文教大学付属小学校は、東急池上線石川台駅から線路沿いに坂を上った、東雪谷2丁目にあります。

本校は、昭和26年、中延にあった立正学園幼稚園の中に、1教室26名の児童で立正学園小学校としてスタートしました。中延から東雪谷に校舎を移し、昭和39年に現在の校舎を建て、昭和44年に立正女子大学付属石川台小学校と校名を変え、昭和60年に文教大学付属小学校となりました。創立62周年になります。

現在1学年から6学年まで、各学年1学級、男子103名女子111名合計214名、職員総数23人で教育活動を展開しています。雪谷地区9つの自治会の地域から通っている児童は、21名です。

建学の精神は「人間愛」です。他の人へのやさしさや思いやりの心を基盤として、思考力や判断力をもって、正義を貫く強い意志や行動力がある人間を育てることを目指しています。

新校舎が、8月中旬に竣工しました。学校近隣地域の皆様には、工事の様々な面でご理解やご協力をいただいたことに、改めて感謝申し上げます。新校舎の特色は図書を中心に配置する、全館図書館構想です。子供の生活の側に常に本があり、読み物センターであり情報センターとしての機能を発揮できるようにしています。

また、中原街道沿いの東光株式会社の所有であったビルの鉄筋コンクリート地下1階部分をいかして、本年4月に第2運動場ができあがりました。子供達は元気に体を動かし、体力向上にも力を入れています。新校舎完成に伴って、平成26年度募集から1学年25人の2クラスにしていけます。

日頃から、地域の皆様には本校の児童を温かく見守り、登下校の態度がよいなどお褒めの言葉をいただいていますことに感謝申し上げます。全校で洗足池公園に写生会に行ったり、3年生が社会科で学校の周りの地域を調べに行くなど、地域との結びつきを大切にしたい学習を今後とも推進して参ります。また、各関係皆様方の深いご理解により、洗足池小学校避難所運営協議会にも参加させていただき災害時の対策として心強く思っております。今後とも雪谷地区のよき環境を活かし、人々の温かさに感謝して教育活動を進めてまいります。

(文教大学付属小学校校長・小宮山郁子)



富士山に魅せられて



世界文化遺産登録おめでとうございます。富士山愛好者の一人として心よりお祝い申し上げます。

この地に在住して70余年、海生まれ(旧逗子町久木)の私がここまで山岳写真の魅力にとりつかれたのはなんだったのでしょうか？

小池小学校5年生の時に担任の先生に連れられ、高尾山に植物採集に行ったのが「山」と云う名のつく所に登った最初で、富士山には、高校1年の夏休みに学友3人と大した装備もせず暴走登山で初登頂しました。富士山の魅力は？と問われても一言では言い表せませんが、登った者しかあじわえない山頂からのご来光の感激と展望の素晴らしさ、また湖畔や草原から朝日を浴びて刻一刻変わる姿が一番ではないでしょうか・・・

「富士山に一度も登らぬ馬鹿、二度登る馬鹿」と言われますが、意に反して社会人になり無線通信の仕事・ボランティアでの付き添いを含め山頂には10数回、2～8 合目迄足を運んだ回数は清掃活動を含め100回を越えていると思いますが正確な回数は覚えておりません。

厳冬期は8合目までは行けたのですが、山頂に立てなかったのが今でも残念に思っています。体力があるうちに再度挑戦しておけば良かったと悔やんでいます。仕事とはいえ重たい無線機を担いで良く登ったものだと当時が懐かしく思い出されます。近年は腰・膝痛の治療のため断念せざるをえず、願望の孫4人との登山も先になりそうです。数年前ゴルフ仲間の還暦祝い登山に同行して以来登頂は遠のき、麓からの撮影が主になっています。

小池小・大森六中通学時代は、この地域でも富士山が見える場所は多くありましたが、建物が高層化され富士見橋・富士見坂からも見えにくくなってしまいました。六中生時代からカメラに興味を持ち、この地域から富士山を撮影したもののフィルムの保管が悪く引き伸ばしが出来ない状態になってしまったのが残念です。

最近富士愛好会の仲間と、また個人でも機会をとらえ、深夜星空を確認して富士山麓に足を運び、プロのカメラマンの指導を受けていますが天候には勝てずシャッターを一度も押さずに、日帰り温泉で癒して帰宅する日も多々あります。今冬も、幾度となく山中湖のダイヤモンド富士にチャレンジしましたが、日によっては湖畔に数百人近いカメラマンが並び場所取りに苦労します。デジカメの普及と共に、8割強がデジカメ愛好者のようですが、古参のカメラマンの一人として引き続き中型カメラで銀塩フィルムを愛用していきたいと思っております。撮影した作品の一部を、毎年雪谷特別出張所のご協力を得て雪谷ギャラリーに展示させていただき皆様にご覧いただいた回数も今年で5回目になりました。

“富士の病”は重症ですが、今年もこの一枚を求めて富士山通いで治療に努めます。

(小池・原龍興)

上池上自治会防災対策説明会

大森十中避難所運営協議会は、7月11日、地区内のマンション代表者を集め、「上池上自治会の防災対策」に関する説明会を実施しました。

大森十中避難所運営協議会は、これまでも災害時避難者の受け入れについてさまざまな準備・検討を行ってきましたが、本年度より、大田区の方針に基づいて、さらに災害時の情報拠点・地域活動拠点としての役割を担うこととなりました。マンション居住者の多い上池上自治会では、地域活動を進めるうえで、マンション居住者の理解と協力を得ることは不可欠なことです。

説明会には、避難所運営協議会委員の他大森十中・雪谷特別出張所・大田区防災課・田園調布消防署久が原出張所の職員が参加し、マンション代表者は33名参加しました。

まず、大田区防災課より、地震発生時の被害想定、飲み水・食糧・トイレを含めた備蓄品等の説明があり、避難所で使用する毛布や銀色シートを実際に手にとってみてもらいました。次に自治会長が、避難所の役割、避難所委員会の活動についての説明をしました。

両者とも公的救助の限界に触れるとともに、自助の重要性、平時から地域とつながりを持つことの重要性を訴えました。最後は西馬込センチュリーハイツの防災対策マニュアルの紹介がありました。

協議会では今後も同様の説明会を行い、防災対策への理解と協力の輪を広げていく予定ですので、今後ともご協力よろしくお願いたします。



(上池上・橋爪とし子)

洗足池小学校60周年

洗足池小学校校長 宮田 周二

洗足池小学校は、本年で開校60周年を迎えました。本校に残されている資料によると、開校前の学校周辺は、畑から住宅地として急速に発展し、近隣校の児童が急増しました。そのため、子どもたちに新しい学校が必要になり、地元地域の熱意によって昭和28年4月1日にこの地に本校が誕生したと記されていきました。本校の開校には、先人の多くの方々が、地域の子どものための教育を真剣に考えていただいたお陰であると感謝と敬意の念を抱きます。

開校60周年記念式典は10月26日(土曜日)の10:30から本校の体育館で行う予定です。また、午後から池上会館で本校PTA主催による記念祝賀会を予定しています。

※8月1日現在、
10学級、児童数255名

